

## 海洋理工学会平成 20 年度春季大会プログラム

5月15日(木)

一般講演

10:00-12:00 特別セッション

メタンハイドレート開発に伴う環境影響を評価するための新技術開発 座長 中田喜三郎(東海大学)

A1. メタンハイドレート開発促進事業における環境影響評価分野の研究概要

○荒田直((財)エンジニアリング振興協会)

A2. 海洋底泥表層における微生物遺伝子マーカーの探索と利用

帆秋利洋(大成建設(株)技術センター)、沖田紀子(タックコンサルタント(株))  
布施博之((独)産業技術総合研究所生物機能工学研究部門)、福場辰洋(東京大学生産技術研究所)

藤井輝夫(東京大学生産技術研究所)、鋤崎俊二((株)日本海洋生物研究所)

片山美津瑠(大成建設(株)技術センター)、吉田光毅(大成建設(株)技術センター)

A3. マイクロ流体デバイスを応用した現場型遺伝子解析装置「IISA-Gene」によるバイオマーカー検出に向けて

福場辰洋、プロヴァン クリストフ、山本貴富喜(東京大学生産技術研究所)

帆秋利洋(大成建設(株))、藤井輝夫(東京大学生産技術研究所)

A4. 深海域から噴出したメタンガスの海水中での挙動予測モデル開発

○鋤崎俊二((株)日本海洋生物研究所)、中田喜三郎(東海大学海洋学部)

Poojitha D. Yapa(Clarkson Univ)

A5. メタンハイドレート分解生成水の放出予測

○石原靖文、浅野和仁(日本エヌ・ユー・エス(株))

A6. 海底での地層変形モニタリングシステムの開発

○横山幸也、斉藤秀樹(応用地質株式会社)

シンポジウム「海底資源開発の新技術 ー資源立国を目指してー」

13:30-14:00 S1. 基調講演:海底資源開発技術の展望

山崎哲生(大阪府立大学大学院)

14:00-14:30 S2. 合成開口ソナー探査

○澤 隆雄、青木太郎、吉田弘、百留忠弘、石橋正二郎(海洋研究開発機構)

14:30-15:00 S3. メタンハイドレートの音響観測

青山千春((株)独立総合研究所)

15:15-15:45 S4. 海底熱水鉱床の採鉱システムに関する技術的概念検討

大岡 隆((独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構)

15:45-16:15 S5 熱水プルームのモデル解析

石原靖文(日本エヌ・ユー・エス(株))

16:15-16:45 S6 海中自動マンガン濃度計測

浦 環(東京大学生産技術研究所)

16:45-17:15 総合討論

17:30-19:00 イブニングセッション

5月16日(金)

一般講演

9:50-11:30 機器開発

座長 千賀康弘(東海大学)

A7. 可視衛星画像による造礁サンゴ群集の多様性解析ーインドネシア国スンバワ海域の例ー

○菅野 進(共和コンクリート工業)、古島靖夫(海洋研究開発機構)

大金昭彦(ジール・オーシャニック・オフィス)、柳川雅彦、本間公也(共和コンクリート工業)

A8. 清水港植物プランクトン色素組成の時系列観測に基づく種組成遷移の非線形解析

○小松千紘、千賀康弘(東海大海洋)

A9. 船舶搭載型海洋蛍光ライダーの開発

○篠野雅彦、桐谷伸夫(海技研)、窪田祥朗、伊藤文雄、石田邦光(鳥羽商船高専)

A10. 群集組成推定可能な現場型多波長蛍光光度計システムの開発

○堀内智啓、長澤泰宏(アレック電子)、千賀康弘(東海大海洋)、秋葉龍郎(産総研)

A11. 多波長蛍光光度計を用いたアオコ監視手法と監視システム構築の展望

○西林健一郎、原田洋一(いであ(株))、堀内智啓(アレック電子(株))

11:30-12:10 総会・学会賞表彰式

13:00-13:40 ポスターセッション (小会議室)

P1. 漁船「清徳丸」事故海域の緊急調査

○柳谷昌信、南部喜信、平井貴裕、長谷川澄、門馬大和((独)海洋研究開発機構)

P2. AUV「うらしま」で初めて明らかとなった前弧海盆泥火山の初期形成史

○森田澄人(産総研 地圏資源環境研究部門)、芦寿一郎(東大 海洋研究所)

月岡 哲、澤 隆雄(海洋研究開発機構 海洋工学センター)

山本富士夫(海洋研究開発機構 地球深部探査センター)

P3. 深海巡航探査機「うらしま」による海底精密探査のための技術試験

○石渡準也、月岡 哲、澤 隆雄、百留忠洋、山本富士夫、石川暁久、中條秀彦、  
南部喜信、渡辺耕二郎((独)海洋研究開発機構)

P4. 「かいれい」における反射法地震探査の高精度化について

○清水 賢、柴田秀紀、佃薫、樋泉昌之、片山 健、黒田芳史、石原泰隆、  
潮村洋介、吉川博美、北村仁

13:40-14:40 バイオテレメトリー

座長 新家富雄(システムインテック)

A12. 受動的音響観察によるジュゴンの音響検出確率

○市川光太郎(京大院情報)、赤松友成(水工研)、新家富雄(システムインテック)、荒井修亮(京大院情報)、

原 武史(日本水産資源保護協会)、Kanjana Adulyanukosol(PMBC)

A13. 魚類に曳航させたデータロガーの加速度データの検証

○野田琢嗣、横田高士(京大院情報)、大津 順(富山水試)、内藤靖彦(バイオロギング研)、  
荒井修亮(京大院情報)

A14. ノルウェーにおける魚類バイオテレメトリー研究の現状

ーランブサッカーの追跡調査を行ってー

○三田村啓理、荒井修亮(京大院情報)

**14:40-16:00 生態系モデル1**

座長 植田真司(環境科学技術研究所)

A15. 海洋生物への化学物質蓄積モデルの研究 -プロトタイプモデルの開発-

○江里口知己、市川哲也((株)SAT)、中田喜三郎(東海大)、堀口文男(産総研)

A16. 海洋における化学物質の分解生成物に関するモデル開発について

○市川哲也、江里口知己((株)SAT)、安井久二、亭島博彦((株)日本海洋生物研究所)  
栗原路子、橋本伸哉(静岡県立大)、中田喜三郎(東海大)、堀口文男(産総研)

A17. 海域環境改善施策の評価を目的とした浮遊系ー底生系結合モデルの開発

○永尾謙太郎、芳川忍、畑 恭子、細田昌広(いであ(株))、中田喜三郎(東海大学)

A18. 浮遊系ー底生系結合生態系モデルによる海域環境改善策の検討

○芳川忍、永尾謙太郎、畑 恭子、細田昌広(いであ(株))、中田喜三郎(東海大学)

**16:10-17:00 生態系モデル2**

座長 畑恭子(いであ)

A19. メタンの海洋生態系による固定・消費メカニズムの定量的把握に関するモデル開発の現状

○物江大輔、大見智亮、寺澤智彦((株)中電シーティーアイ)、山崎哲生(大阪府立大学大学院)、  
福島朋彦(東京大学海洋アライアンス)、中田喜三郎(東海大学)

A20. チャンバー実験による汽水性アマモ場における基礎生産量の評価及びその季節変動について

○植田真司(環境科学技術研究所 環境動態研究部)、柿本広志、高屋聡子(株式会社 ZAX)  
久松俊一(環境科学技術研究所 環境動態研究部)

A21. 三河湾での有機物沈降フラックスに及ぼす DOC 分解速度の影響

○渡辺睦美、中田喜三郎(東海大学海洋)

A22. 生態系パラメータに着目したエクスポートフラックス解析

○茂木博匡、中田喜三郎(東海大学海洋)

A23. 窪地付近の流動解析

○大野創介、中田喜三郎(東海大学海洋)